

平成24年度 学校自己評価システムシート (県立羽生第一高等学校)

目指す学校像	地域に根ざした進学校として、自主・自律の精神を育み、「求めて強き風に立つ」力強さを育てる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人の学力の向上を通して、より高いレベルの進路実現を図る。 2 家庭と連携して、規範意識の醸成に努めると共に、不屈の精神を育てる。 3 開かれた学校づくりを推進し、生徒募集を安定させる。 4 施設・設備の改善と整備に努め、学習環境を整える。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評議員会時の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状)・平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒の割合が1年は24%、2年は7%、3年は15%と少ない。 ・進路希望調査では大学進学希望者が多いが、特に国公立大学への進学希望者が、学年が進行すると共に大幅に減少している。 ・一般受験を避け、指定校推薦に流れる生徒が多い。 (課題)・進路について、考えを深めさせること。 ・進路希望の実現ため、家庭学習の習慣を身に付けさせること。 ・進路希望のレベルを下げずに頑張らせること。 ・わかりやすい授業を行い、学力の向上を図り、一般受験でチャレンジする生徒を増やすこと。	学力の向上とより高いレベルの進路希望実現	<ol style="list-style-type: none"> ①面談回数を増やし、生徒に進路について考えさせる機会を増やす。 ②シラバスの学習計画表やスタディサポート結果を活用し、定期的に家庭学習時間の見直しをさせる。 ③わかりやすい授業、家庭学習を必要とする授業を行い、主体的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせる。 ④進路指導部と学年の連携を深め、進路講演会、進路ガイダンス等の充実を図り、学習意欲を高め、高い進路目標へ挑戦する意欲を高めさせる。 ⑤教科内で、指導法や考查問題の検討会を行うなどして生徒の学力向上を図り、高い進路目標にチャレンジできる力を付けさせる。 ⑥特進クラスの補習や勉強合宿を契機に全校生の学力向上に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①面談回数が1、2年生は年3回以上、3年生は年5回以上になる。 ①②アンケートで「生徒一人一人に適したきめ細かな進路指導を行っている」の回答が40%を超える。 ②③④家庭学習時間が2時間以上の生徒が、3割以上になる。 ③アンケートで「授業がわかりやすい」の回答が40%を超える。 ④進路講演会や進路ガイダンスが効果的なものになる。 ⑤学力向上に向けて、情報交換が教科内で定期的のできている。 ①②③④⑤センター試験受験者が50%以上になる。 ⑤センター試験で全国平均を上回る生徒が各科目とも3割以上いる。 ⑥特進クラス生徒を始め、全校生徒が、意欲的に学習に取り組み、成績優良者が前年よりも増加する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①各学年とも2回以上は面談実施。1年特進クラスは4回実施。3年は面接試験の生徒中心に頻りに面接実施。 ①②アンケートで「きめ細かな進路指導をしている」の回答が67.1%と増加。 ②③④家庭学習時間2時間以上の生徒が3割を超えたのは3年のみ。 ③アンケートで「授業が分かりやすい」の回答が70.6%と増加した。 ④各学年とも予備校講師による進路講演会を実施。12月金子兜太氏・3月浦和レッズ 落合弘氏講演会実施。 ⑤センター試験受験者が増加した。出願155名(56%)、受験127名(46%)。昨年度出願127名、受験110名 ⑥成績優良者(8.0以上)人数、(昨年)1年特進・総進 2年 3年 1学期 10・7(16) 28(30) 51(46) 2学期 9・10(25) 30(29) 28(30) ほぼ昨年並みであった。 	B	・より高いレベルの進路希望を実現させるため、教科指導法の改善を図るとともに、生徒が主体的に授業や家庭学習に取り組むように学習意欲を喚起していく。
2	(現状)・生徒懲戒は少ないが、身だしなみにルーズな生徒がいる。 ・交通事故や痴漢等の被害に合う生徒がいる。 ・生徒数減により、各部活動の部員数が減少してきている。 (課題)・交通ルールや服装マナー等の規範意識を醸成すること。 ・事故防止を意識させること。 ・部活動を活性化すること。	規範意識の醸成と不屈の精神の育成	<ol style="list-style-type: none"> ①女子生徒を対象に防犯講習会を開催し、また機会ある毎に生徒に注意を喚起し、事件・事故に遭わないように自律的態度を養う。 ②学校行事や部活動、日々の学習をとおり、本校生であることに誇りを持たせ、規律ある態度を養う。 ③意欲的に部活動に参加させ、勉強との両立を図らせ、精神的にも体力的にも強い生徒を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①交通事故件数、痴漢被害件数が前年より減少する。 ②整容指導で再検査を受ける生徒が減少する。 ②集会における挨拶や校歌斉唱の声がしっかりと出るようになる。 ③部活動加入率が80%以上(1学期調査)になり、アンケートで「部活動が盛んである」の回答が50%を超える。 	<ol style="list-style-type: none"> ①痴漢被害4件(15件)、盗難被害0件(4件)、交通事故5件(9件) 生徒懲戒3件(11件) ()は昨年度 ②整容指導ではスカート丈指導が課題。 ②挨拶・校歌斉唱は継続指導が必要。 ③1、2年生の部活動加入率がやや低下した。6月 86.8% 10月71.5% アンケートで「部活動盛ん」の回答82.5% ③弓道部男子が関東大会及び全国遠の大会で優勝し、生徒に大いに自信を持たせることができた。 	B	・今年度は盗難の被害はなかったが、貴重品の管理意識が低いので、啓蒙を続ける必要がある。 ・自転車事故撲滅の啓蒙をする。 ・スカート丈が短いので、身だしなみ等の品格の意識を持たせることが必要である。
3	(現状)・本校への志願倍率が低迷している。 ・一昨年から始まった羽生市「学びあい夢プロジェクト」が定例化し、中学校との連携が図れるようになった。 (課題)・本校の教育活動や実績を分かりやすくPRし、中学生や保護者に理解してもらうこと。 ・中学生及び保護者にとって、本校の教育が魅力あるものとなるようにすること。	開かれた学校づくりと本校への進学希望者の増加	<ol style="list-style-type: none"> ①入学生が本校を選択した理由等を分析し、生徒募集に活かす。 ②中学生及び保護者に本校の求める生徒像を、学校説明会やホームページでわかりやすくPRする。 ③市内中学校への出前授業や学校説明会、部活動交流等を通し、中学生が本校に親近感を持ち、本校への志願者を増やす。 ④保護者や学校評議員から寄せられた意見を活かし、本校教育活動の充実を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①教員による中学校訪問において、適切な情報発信ができる。 ①②③学校説明会への参加者が前年より増加し、志願者が12月調査で1倍以上になる。 ②HPの更新回数が増え、アクセス数も前年よりも増える。 ④保護者や学校評議員からの意見を活かすことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①入学生の本校選択の理由を分析し学校説明会に活かした。 ①教員が分担して、各中学校へ3回以上訪問し本校のPRができた。 ①学校説明会 ()は昨年度 生徒延人数857名(736名)16%増 生徒実人数592名(570名)4%増 ②HPのアクセス数の増加(1月末)今年度97771件(昨年比74%増) ③5中学校で出前授業を実施した。 ③12月志願倍率0.92倍(昨年0.86倍) ④環境整備等についての意見を参考に施設設備の修繕をした。 	A	・入学生の保護者から本校選択の理由を探り、生徒募集に活かす。 ・本校が安心して学習できる環境にあり、進路実現ができることの特徴を地域の中学生及び保護者に伝えるように工夫していく。 ・本校生徒に学校PRの協力をしてもらうなど生徒募集に工夫をする。
4	(現状)・開校37年目になり、施設設備の老朽化が目立つ。 (課題)・県費が付かない箇所の修理・修繕を進めること。	快適な学習環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> ①県費による改修の3カ年計画を立て、財務課へ要求していく。 ②緊急を要する箇所、改善要望の高い箇所から団体費を有効に活用し改修を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①改修工事の3カ年計画を作成することができる。 ②危険箇所や改修の要望が多い所の改修ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①計画できなかった。 ②同窓会費で野球部ピッチングヤードの改修、後援会費でトイレの改修ができた。 	B	・修繕改修要望書にPTAの要望書を付けるなど工夫し、財務課に予算要求していく。

実施日	平成25年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目を具体的にすると取り組みやすいのではないかと。例えば朝読書や朝補習の中で、漢字検定、漢字コンテストなど全校一斉に行い、普段やらなくてはならない基礎学力を養う。小さな達成感を持たせることが大きな目標に向かっていく力になる。 ・朝読書をやるようになり、中学時代より家でも本を読むようになった。 ・進学補習に参加できない生徒も多いので、基礎の補習も行ってほしい。 ・他の項目も含め、次年度の改善策が具体的でない。重点的に取り上げることを書いた方がよい。 ・評価Bは適切である。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に遅刻回数を入れてはどうか。 ・羽生一高は進学校なので、だらしないのは良くない。自分の学校に誇りを持つてもらいたい。 ・スカート丈など生徒自身が積極的に話し合ったりして問題解決をすることが大切ではないか。 ・挨拶、服装など保護者も通学路で指導できたらよいのではないかと。 ・評価Bは適切である。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・今はネット社会なので、HPを頻りに更新していくと生徒募集に繋がる。特に受験期はHPの充実が大切。 ・出前授業など市内だけでなく近隣の市ともっと交流できたら、志願倍率も上がるのではないかと。 ・学校説明会でもっと在校生の声が開けたら中学生の参考になるのではないかと。 ・評価Aは適切である。
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・県で追加予算が組まれる時もあるので粘り強く要求する必要がある。 ・1、3階と同様に4階にも洋式トイレを設置してほしい。 ・評価Bは適切である。